

特定非営利活動法人

## おかやま人権研究センター・ニュース

発行 センター事務局 2013. 4. 10 第23号

### 岡映研究会、岡収集資料の内実を迫る

3月24日(日)の午後、第23回の岡映研究会が岡山民主会館で開かれました。8人ほどの参加者がありました。

報告者は、水島博さんで、「岡映収集資料について」でした。以前にもお知らせしたように当センターは、岡さんが生前収集された資料類をおよそ300ファイル以上保管しています。

この資料のうち、岡さん自身の自筆資料が100ファイル前後あり、その他はその時々発行されたパンフレット類です。それらのうち、今回扱われたものは、1960年、1963年、1965年、1966年、1967年のものです。それらのフィルの中身は、『教育評論』『北京週報』といった雑誌類から、大会運動方針などまでが含まれていることが、今回の報告で明らかにされました。それらの中でも、とくに注目をひくものは、第19回全国大会運動方針討議資料(朝田善之助私案) -1963年-でした。ここには、はっきりと部落第一主義といってよい主張が表れていました。

報告の圧巻は、岡映自身の手書き資料とこれらのファイルとの関連でした。その内容についての分析は、今後委ねられるのですが、参加者の注目をひいたのは、岡さんの収集資料中には、岡映による書き込みがほとんど見あたらないという事実でした。

研究会終了後、研究所から、これまでの成果を『岡映研究』(仮題)として公刊しようという話ですが、出されました。参加者

一同異論なく、9月末日を期して、原稿を出そうということになりました。

大森先生からも、「岡映の思い出」などが口述のような形でも発表していただけないかという希望も出されました。秋頃には、『岡映研究』が刊行されるでしょう。

#### 教育研究会来る教科書検定への対応を模索

これまで繰り返し検討してきたように、あたらしい教科書選定の年は、再来年に迫っています。

2月23日、小出隆司さんが「中国歴史教科書の検討」と題して報告され、中国での歴史教科書が、想像されるような「反日」一辺倒の内容でなく、割合バランスのとれた叙述になっていることを説明されました。他方、それにもかかわらず対口関係の部分では、「環環条約」などについては、全く触れていないことを指摘されました。

それとの対比で、育鵬社、自由社版の教科書には、かなり露骨な「政治的意図」が感じられるということを力説されました。そして教科書選定の年が再来年に迫っており、これらの教科書が採択される虞なしとしないという危機感が表明されました。

小出さんご自身としては、「こども教科書全国ネット21」(代表小森陽一氏ほか、事務局長俵義文氏)に参加されており、センターとしても「岡山県ネット21」を立ち上げようと考えています。